

能楽とかいて宇宙遊泳ととく、 そのころはロボットに！

京都大学MACSスタディグループ10 能と宇宙の融合チーム、オリィ研究所



実演展示やっています！
パイロット(遠隔操作中です！)

気軽に声をかけてください。
Orihimeロボがかわいく応答します。

参加型実演中(13:00-16:00)

1、Orihimeロボとは何か



- オリィ研究所のオリィさんの開発した分身ロボ
- 遠隔操作でお部屋から出にくい方が遠隔でひととふれあえる
- お部屋から出られない方も、身体の自由の聞くとこ(視線だけや小さな可動域)でも動けるOrihime Eye(視線入力装置)と連動している
- 可愛い！
- 離れていてもその人が近くにいるようにおもいえる
- しっかりした作り！
- 詳しくはオリィさんの著書“孤独は消せる”を生協で一読を！



2、研究の目的

- 目的：
宇宙遊泳のワザと能との共通点をOrihimeロボで探ること
宇宙遊泳と能を分身ロボットを使ってリモート操作で実演
- この会場内でのみリモート操作(パイロットに操作いただきます)
目標：
 - 能の振興・人生の機微を探る能の役割を調べ、研究する
 - 宇宙飛行士や宇宙研究者に能の伝統の理解・能の学術的研究・能関係者の方々をおつなぎする・学生に宇宙遊泳にからめて身体技能としての宇宙遊泳・そして能についてのリテラシーを高めること

3、宇宙遊泳と能をOrihimeから読み解く

- この3つ(Orihime、宇宙遊泳、能)にある共通点：
 - 1、可動域(ロボの動く範囲、宇宙服のうごき、能面をつけた演技)
 - 2、生きる気概(パイロットの生きるということ、危険な宇宙での操作、失敗したら切腹ものという能役者の気概)
 - 3、冒険心
 - 4、操作に熟達が必要(操作は簡単でなくワザ、学習が必要)
 - 5、カッコいい！(Orihimeロボ、宇宙飛行士、能役者)

4、パイロット(ロボ操縦者の実演)

- いま、パイロット(遠隔操作)実演しています(観覧はご自由に)
実演タイムテーブル(2019年2月9日13:00-16:00)
 - 1、アイスブレイク 自己紹介
 - 2、パイロットからOrihime操作について、特に入力装置(Orihime eye)などご説明頂く
 - 3、日常で気になること、日頃の楽しいことや困りごとをお互いに話し合う
 - 4、能のお稽古の熟練者より詩吟など声を出すことをかかるとお稽古をパイロットと私たちが一緒に！
 - 5、パイロットに能の悲しみや喜び表現のしぐさをOrihimeをつかって表現いただく
 - 6、パイロットと私たちが能の練習を応用して宇宙遊泳のしぐさをロボにさせることを一緒に考える
 - 7、土井隆雄先生はじめ宇宙研究関係者を6で考えたOrihimeの宇宙しぐさでおもてなし！
 - 番外、お子様などの参加者がブース来訪時にOrihimeで癒していただく(随時)

5、本日の実演における研究の詳細

- 1、宇宙遊泳のしぐさについての研究・能の仕草についての研究
- 2、Orihimeロボ操作を介しての宇宙遊泳の際の管制官の疑似体験
- 3、(2)にからめて)能としておうたいのお稽古を参加メンバーと一緒にOrihimeロボと一緒にする
- 4、ロボットと能が共演するなどという研究 能舞台上にロボットを置いたらどうなるかの研究(許されない場合はご放棄ください)
- 5、宇宙開発においてOrihimeを活用する場面の想定
- 6、遠隔操作における雑談の研究(Orihimeを使って仲良くなる)
- 7、Orihimeで宇宙遊泳と能をよみとくアイデアをパイロットからいただく

6、本シンポ以降のOrihime研究予定

- 1、宇宙学ゼミへのロボ持参と宇宙開発における遠隔操作(ロボ)の可能性を探る
- 土井先生に宇宙遊泳のご体験についてお伺いしたり、寺田先生に健康面や精神面にたいする留意点やリスクについてお尋ねする。そして水村先生から分身ロボ(アバター)からの宇宙教育全般につきアドバイスいただく
- 宇宙空間にOrihimeロボがいたらどうなるかをかんがえてみる(思考実験を深める)
- 2、能の観賞やお稽古の実演
 - 能役者やお弟子さんとのふれあいのなかでロボットを介して遠隔のパイロットに本物の能をたいけんいただく
 - 3、パイロット(ロボ操作者)と可動域の少ない宇宙服での宇宙遊泳、そして能面をつけた能役者の共通するものをさぐる
- パイロット(Orihimeロボ操縦)と、宇宙遊泳と能における身体性やワザの比較を検証する
- 4、パイロットと一緒にふれあうひとたちの、孤独を減らすことについて医学研究をする
- 5、もっと宇宙も能もロボットも楽しいということを世の中にひろめること